令和7年度 学校評価一覧

本年度の重点目標	① 各部の系統性を踏まえ、一人一人に応じた教育の充実を図る。 ② 持続可能な質の高い教育活動を目指し、「働き方改革」を推進する。		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容を見直し、「働き方改革」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各業務内容を見直し、仕事の効率化を図る。 印刷室の棚等、総務管轄の場所の整理をし、職員が使いやすいとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務を進める中で、効率よくできる方法について考えながら行う。 必要なものなくともよい物の見極めを検討しながら行う。 職員が分かりやすい表示を作成する。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた教材を用意し、児童生徒が目標達成を目指して意欲的に学習に取り組めるようにする。 指導と評価の一体化をより意識して教育活動を実践することができるように、諸表簿の改善を通して学習評価の仕方について見直しを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科・領域会を活用して、各部の実態や学習内容を把握できるようにする。 一人一人の実態に応じた教材を用意しやすいように、各教科、学年等で作成した学習プリントや、視覚支援教材などを集めて整理する。 学習評価を授業改善につなげることができるように、個別の指導計画の評価の時期等を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録等を回覧して、情報を共有できるようにする。 教材については、集めたり整理したりしての終了ではなく、実際に活用し、教材作成に掛かった時間や児童生徒の使用感などについて反省をとり、必要に応じて改善しながら持続的に活用できるようにしていく。 現状の学習評価の時期について問題点等を明らかにして、働き方改革の視点も考慮しながら改善案を検討する。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 校内掲示板(いなざわスタンダード)の取組がより児童生徒の身近に感じる教材となるようにする。 防災訓練と防犯訓練がより実践的な内容になるように内容を見直し、児童生徒の安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの望ましい行動に着目し、評価する場として活用したり、生徒指導に関わる情報を共有したりする。 地震や犯罪などのいつ起きるか分からない未体験の事象に児童生徒が備え、心の準備ができるように体験的な活動を設定したり、事前事後学習の内容を充実させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が望ましい行動について、主体的に考えられるように掲示する場所や内容を変更したり、アプローチを工夫したりする。 訓練でのねらいを明確化し、児童生徒が見とおしを持ちやすくする。また、事前事後学習で児童生徒が共通した学びをより深く有効なものにできるように、学部ごとに教材を整備する。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 新しい福祉就労制度の理解推進、情報提供とそれに伴う進路指導を適切に行う。 進路関係表簿の見直しと改訂。高等部実習の実施に合わせ、実習日誌や関係資料、表簿などの入力書式の変更・更新を行い、適切な評価に結び付けるとともに、表簿入力の職員の負担軽減を図り「働き方改革」につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口横の進路指導部掲示板を活用して、新制度の情報提供を積極的に行う。また、学区域内外の協力企業や福祉事業所などの資料を掲示して、情報提供をする。 進路説明会での情報を更に分かりやすい内容で提供する。 実習評価表など進路関係表簿の入力書式を改訂することで、生徒の実習に合わせて適切な評価を行えるようにする。また、効率的な入力作業が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示期間の遅速がないようにして、タイムリーな情報提供ができるようにする。 説明会では可能な限り最新の情報を提供していく。 常に表簿の書式改善ができるように、職員からの反省や意見を聞いて、常に良いものが提供できるようにする。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた保健・安 	<ul style="list-style-type: none"> 肥満指導や食育指導などの 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換をしながら方向性を確認して

	<p>全教育や健康の保持増進の取組について、より一層の充実を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しや改善を図ると共に、校務運営を円滑に進める。 	<p>個々の健康課題や安全教育などについて、情報提供や児童内容の充実などを関係者と連携を図りながら進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担当者と連携して積極的に業務内容の見直しを積極的に行い、業務改善に努める。 	<p>進めたり、相談しやすい環境を心掛けたりすること、で課題解決に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容について、校務運営の効率化や方向性を確認をしながら進める。 ・各担当者を中心に業務の進め方について意見を求め、必要に応じて改善をしていく。
教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒及び教員への校内支援の充実を図り、質の高い教育活動につなげる。 ・センター的機能の充実を図り、地域の関係機関と連携し、情報を発信、提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修やケース検討会などを行い、校内支援を充実させることで、質の高い教育活動につなげる。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについて周知し、ニーズに応じた連絡、調整を行う。 ・相談活動に活用できる情報資源の作成を進め、効果的に相談活動を行うことで、働き方改革を推進する。 ・巡回、指導検討会のための事例検討を行い、ニーズに応じた巡回相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会について全校に周知するとともに、高等部ケース検討会を月に1回程度実施し、支援の充実を図ることができるようにする。 ・保護者や教員に支援部だより等で案内して周知を図る。 ・担任等と連携を図り、ニーズに応じた相談活動ができるようにする。 ・支援の手引きの作成を進め、巡回相談、指導検討会、ふれあい相談の情報資源として活用していくことで、業務の効率化を図る。 ・必要に応じて事例検討を行い、教員のスキルを高めるとともに、ニーズに応じた助言ができるようにする。
情報教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や支援アプリを効果的に授業に活用した実践の充実を図る。 ・ICT・視聴覚機器・ホームページなどのWebサービス、アカウント管理等、各業務の保守・管理について見直し、校務運営を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けにICT機器や支援アプリを活用した実践の紹介や教材開発に関する研修会（夏季希望者研修等）を開き、誰もが取り組みやすい実践例を増やしていく。 ・児童生徒が主体的にICT機器や支援アプリを活用できるように、使いやすいアプリの準備や機器の設定など環境調整を行う。 ・各業務のまとめ方や分担を工夫し、特定の職員に仕事が偏らないようにする。 ・次年度担当者への引継ぎとして、簡単なマニュアルやスケジュールを作成し、ファイルサーバー上で共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが取り組みやすい実践例を探し、紹介できるようにする。また、本校実践例のリソースとして記録できる仕組みを考える。 ・教材作成等の研修会では、対象児童への機器利用として、支援・指導の理念や考え方も含めて、伝えられるように留意する。 ・児童生徒、授業のタイミングに合わせてタブレット等、ICT機器の活用の機会が増えるように、機器の保管・貸出の方法を工夫する。 ・情報教育部会の際に、各業務の進捗状況を確認し、部会記録に記録し、可視化する。人手が必要な作業時には、日時を決めて担当者を中心に声を掛け合って対応できる環境を整える。 ・各業務担当者は、業務引継の際、特に複雑な作業は、口頭説明だけにならないように留意する。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境の充実を図る。 ・児童生徒の読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や職員のニーズに応じた図書資料の充実を努めるとともに、誰もが利用しやすい図書室となるよう環境を整える。 ・図書室オリエンテーションや読 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒や職員から本のリクエストを募り、ニーズに合わせた内容や形式の本を選定する。図書の検索を行えるようにしたり、配架方法や表示レイアウトを工夫したりして、本を探しやすく手に取りやすくする。 ・読書週間では、図書室内にコーナーを特設し、大型テレビや書画カメラで図

		<p>書週間等での取り組み、新しい図書や季節や題材に合わせた図書の紹介を通して、児童生徒と職員の積極的な図書利用を促すとともに読書活動の充実を図る。</p>	<p>書の閲覧ができるようにする。また、ブックリストの更新、掲示を行い、季節や題材に合わせた図書を紹介し、としよだよりを定期的に発行して情報発信を行う。</p>
研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上を図る。 ・各業務について見直し、校務運営をより円滑に進められる方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修では、職員の関心や必要性の高い内容を選んで計画する。 ・研究では、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて、具体的な指導場面での授業展開や教材について考える。 ・各担当者と連携し、改善できる点がないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員から要望を聞いたり他の校務分掌と協力したりして、研修の内容を設定し、専門性を高める機会とする。 ・研究の目的や内容を明確にし、各自で関心のある指導場面を選び、授業等で実践をしながら研究を進められるようにする。 ・研究日に数人の職員でグループを作り、研究や日頃の指導・支援等について情報交換できる場を設ける。 ・研究の様子や成果、課題等を各自でレポートにまとめ、それらの事例を全職員で共有できるようにすることで、より充実した指導・支援へとつなげる。 ・改善できる点がないかどうか見直しながら計画・実施する。すぐに対応することが難しいものは、来年度以降に対応できるように、適宜校務部会等で検討を進める。
自立活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導の充実を図る。 ・円滑に業務を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に関する研修会や相談会を行い、支援や指導に生かせるようにする。 ・自立活動室の教材・教具の紹介や使用方法の周知を行うとともに、資料を充実させ、閲覧しやすく整える。 ・各係のマニュアルをもとに仕事内容を整理、分担し、計画的に業務を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家を招いて研修会を行い、必要な知識、技能を高められるようにする。 ・校内の専門性の高い職員と連携して研修会や相談会を実施し、必要な情報を提供する。 ・使用頻度の低い教材・教具や、新規購入した教材・教具などの紹介を行う。紹介した内容はデータ集にまとめ、授業等で安全に支援、指導ができるようにする。 ・各係で作成しているマニュアルを一覧できるように整える。また、各担当が計画的、円滑に業務を進められるようにするとともに、確実に引継ぎができるようにする。